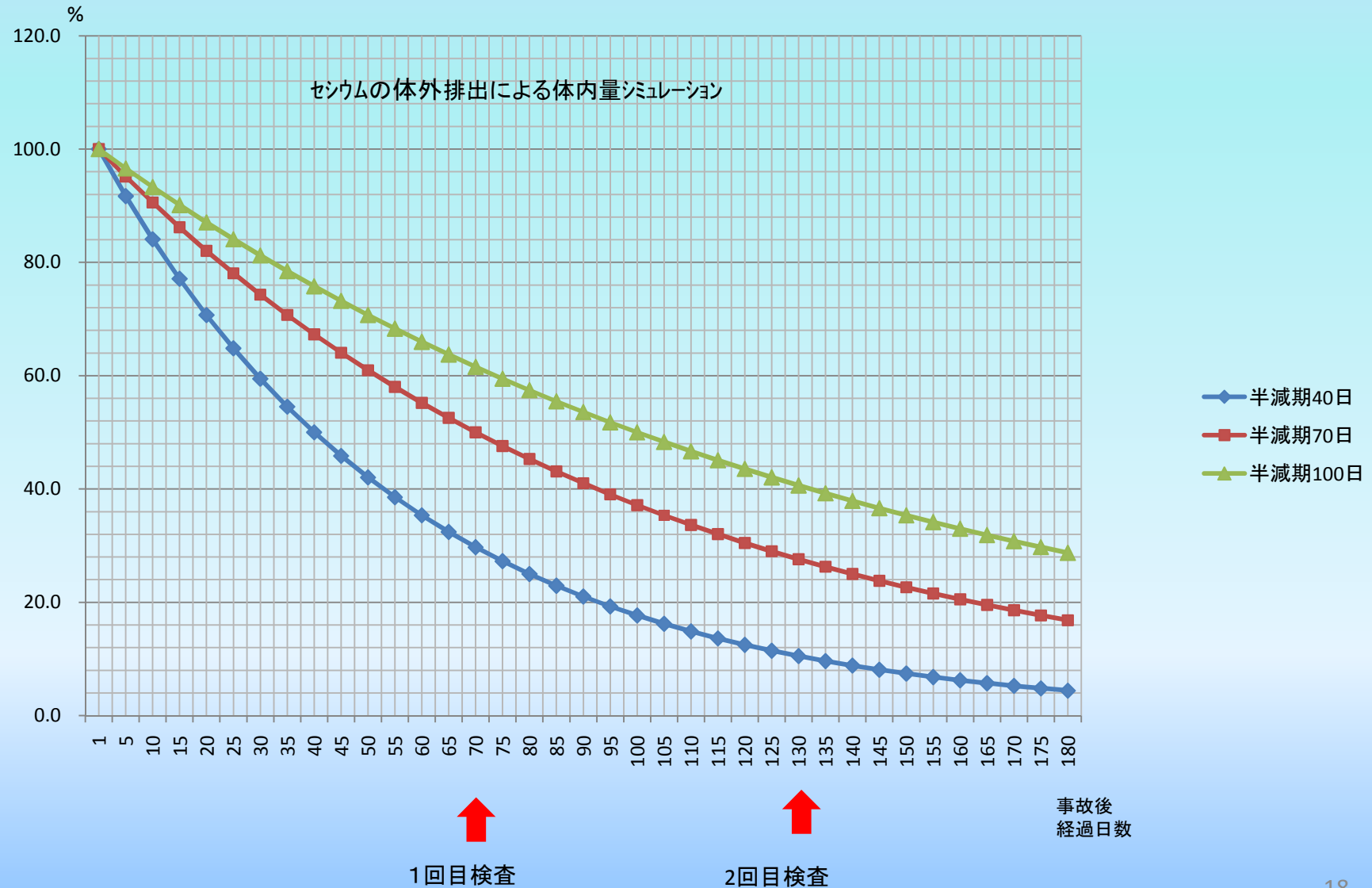


セシウムの体外排出による体内量シミュレーション



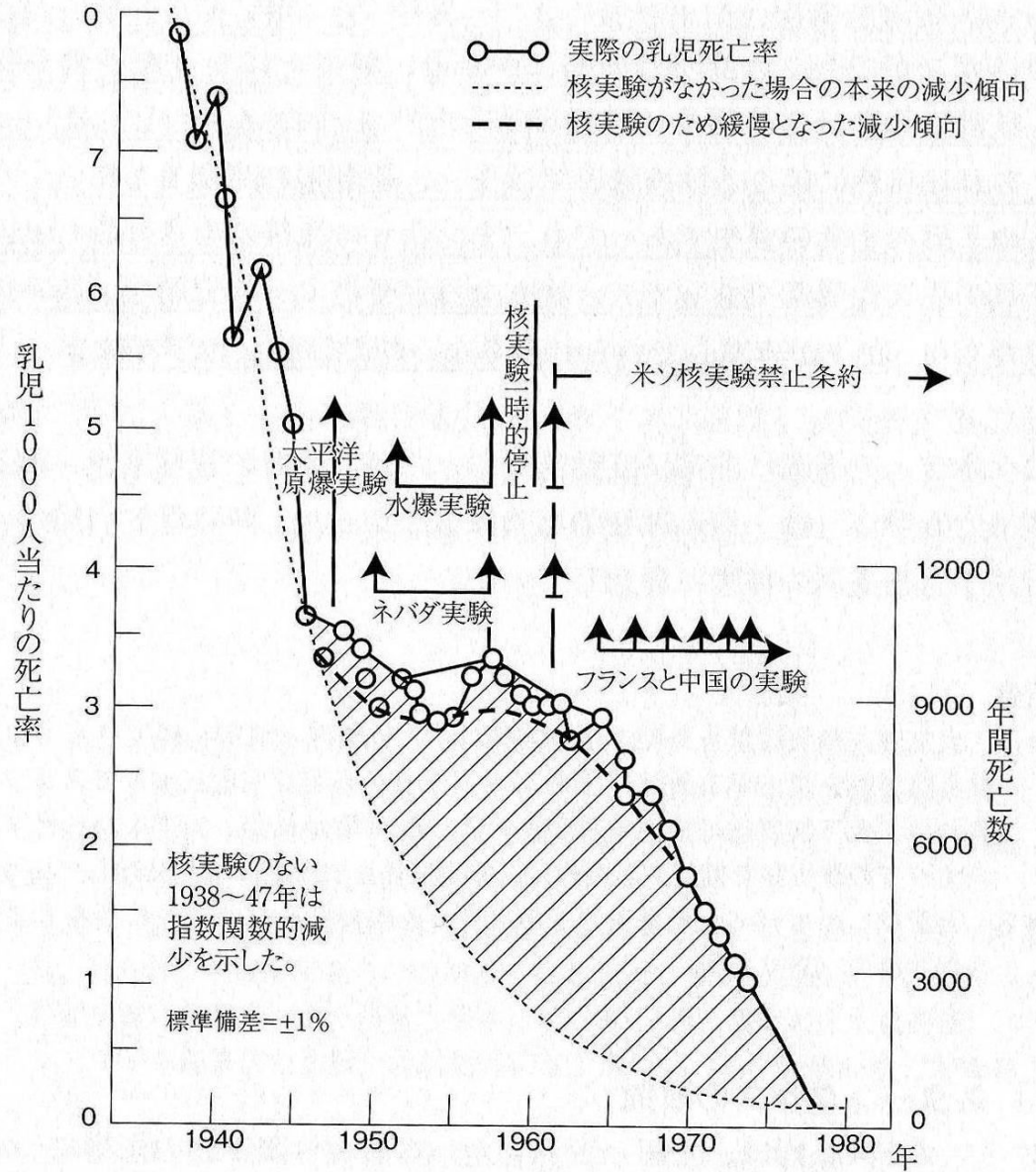
セシウムの生物学的半減期のシミュレーション				
日付	時間(日)	40	70	100
3月13日	1	100.0	100.0	100
	5	91.7	95.2	96.6
	10	84.1	90.6	93.3
	15	77.1	86.2	90.1
4月2日	20	70.7	82.0	87.1
	25	64.8	78.1	84.1
	30	59.5	74.3	81.2
	35	54.5	70.7	78.5
4月22日	40	50.0	67.3	75.8
	45	45.9	64.1	73.2
	50	42.1	61.0	70.7
	55	38.6	58.0	68.3
5月12日	60	35.4	55.2	66.0
	65	32.4	52.5	63.7
	70	29.7	50.0	61.6
	75	27.3	47.6	59.5
6月1日	80	25.0	45.3	57.4
	85	22.9	43.1	55.5
	90	21.0	41.0	53.6
	95	19.3	39.0	51.8

6月21日	100	17.7	37.2	50.0
	105	16.2	35.4	48.3
	110	14.9	33.7	46.7
	115	13.6	32.0	45.1
7月11日	120	12.5	30.5	43.5
	125	11.5	29.0	42.1
	130	10.5	27.6	40.6
	135	9.6	26.3	39.2
7月31日	140	8.8	25.0	37.9
	145	8.1	23.8	36.6
	150	7.4	22.7	35.4
	155	6.8	21.6	34.2
8月20日	160	6.3	20.5	33.0
	165	5.7	19.5	31.9
	170	5.3	18.6	30.8
	175	4.8	17.7	29.7
9月9日	180	4.4	16.8	28.7

・元ピッツバーグ大スターングラス教授は米国における肺炎、インフルエンザによる乳児死亡率と核実験の影響を指摘している。

「人間と環境への低レベル放射能の脅威」
ラルフ・グロイブ／アーネスト・スターングラス著 より

第5図 米国における肺炎とインフルエンザによる乳児死亡率

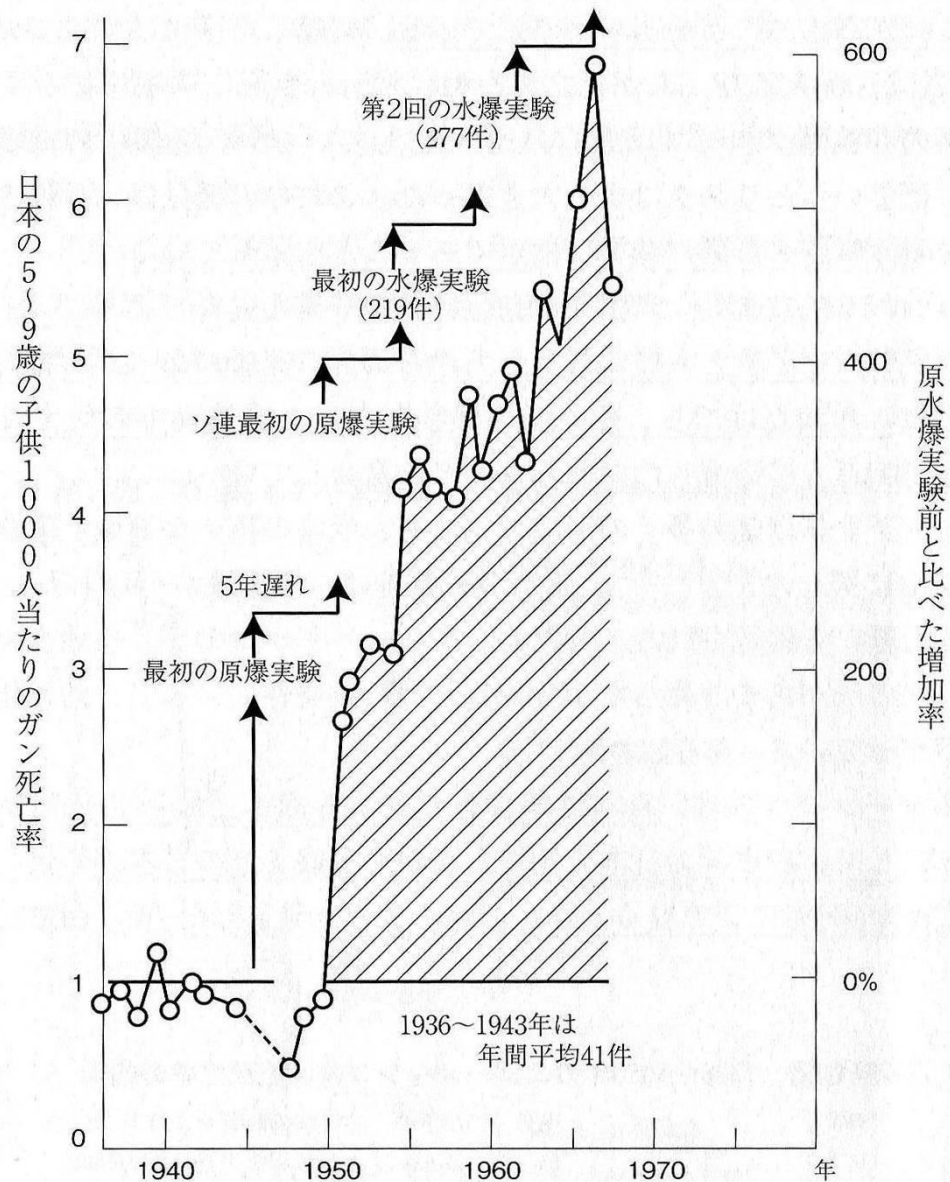


出典：米国人口動態統計

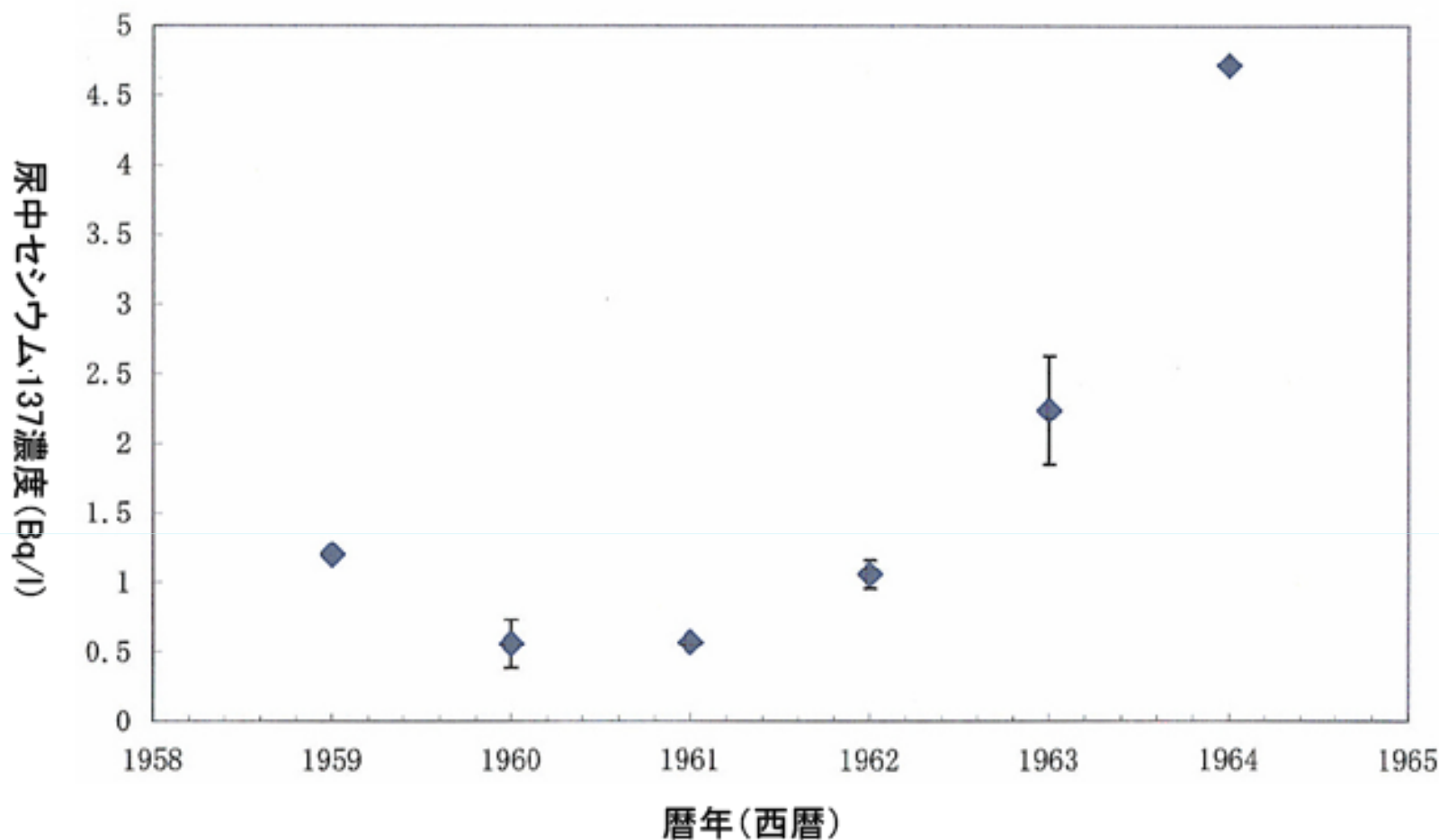
・スターングラスは日本の子どももののガンの死亡数と核実験との関係を指摘した。

「人間と環境への低レベル放射能の脅威」
ラルフ・グロイブ／アーネスト・スターングラス著 より

第7図 5～9歳の日本の子供のガンの死亡率*²



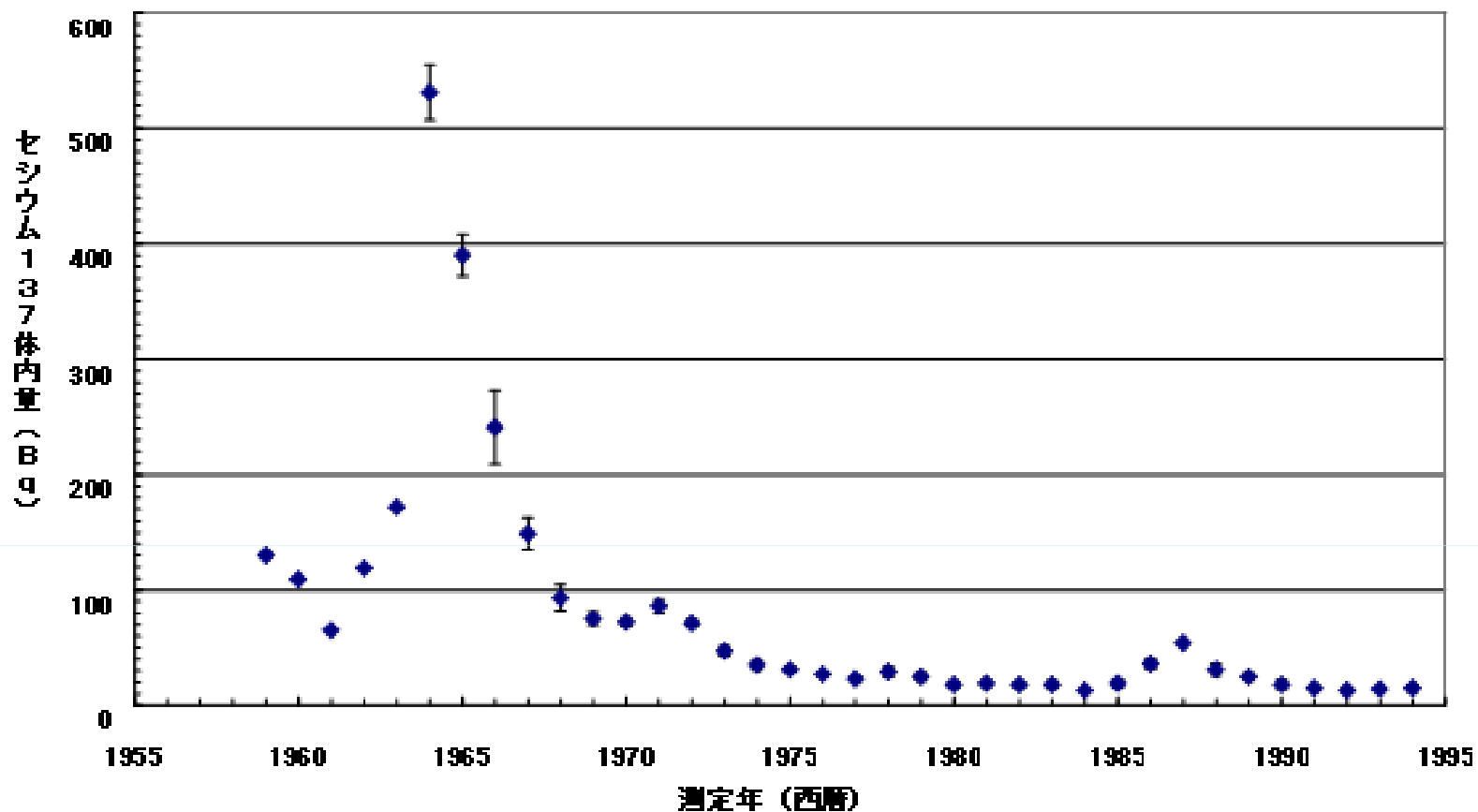
出典：瀬木他、日本癌学会



文献3,4,5にpCi/l表示で記載された数値をBq/lに換算して本図を作成

図2 日本人中学生尿のセシウム137濃度の推移
(1959-1964年)

[出典] Journal of Radiation research 3(1962), Survey Data in Japan 3(1964)、ibid. 6(1965)



(1959-1994)

下記出典のFig.2の不要部分を消し、1994年値を追加し、さらに図2,3から推定した1959年から1962年まで4年間の体内量を追加して改変

図4 日本人成人男子群のセシウム137体内量の推移

[出典]Health Physics 71, 322 (1996)

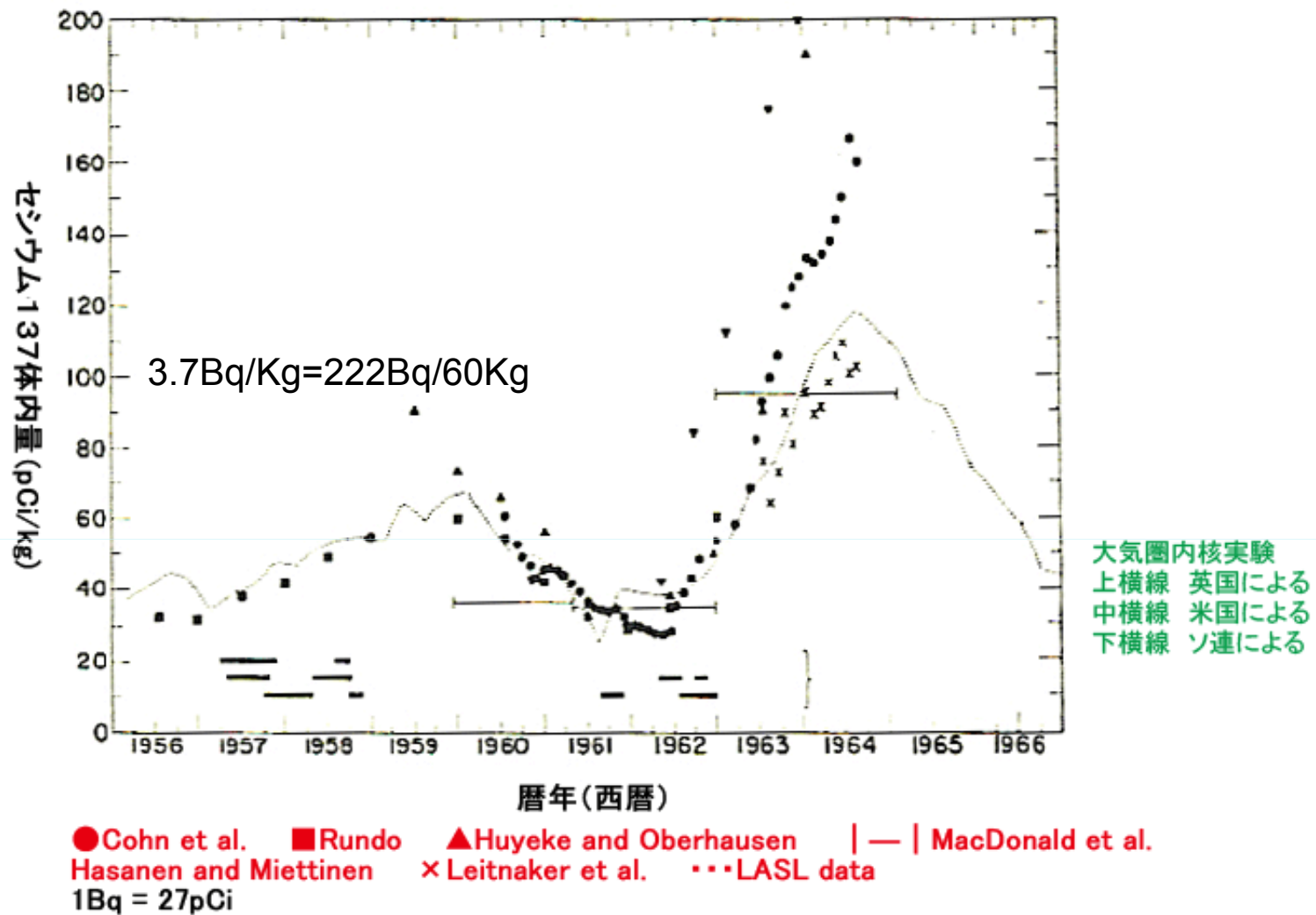


図1 北半球諸国から報告された1956年1月から1966年12月までのセシウム137体内量

[出典]Radiation Research 3、545(1967)